

FOMAの開発経験

「日常的に使う商品に携わりたい」という漠然とした理由から携帯電話会社に入社した。当時は第3世代携帯電話（FOMA）の黎明期。社運を賭けたFOMA開発プロジェクトの中心に放り込まれ、夢中で技術を学んだ。入社から4年は怒濤の日々であったが、技術を習得できる喜び、街中で私の手がけた製品を使うお客さまを見る喜びに、充実感が満たされた。

その後、開発現場を離れ、営業部、サービス企画部を経験した。まるで転職をしたかの

凛としていきる

理系女性の挑戦

新しい扉こじ開けよう



ような部署異動で私が学んだことは「一人では何もできない」という事実だった。周囲を巻き込みながら業務を推進していく大切さを意識するようになった。このマインドはそ

の後の自分のキャリア形成の根幹となった。2010年の出産、その後のライフスタイルの変化から、人生に対するスタンスは大きく変わった。それまでは与えられた業務に対してしっかりと成果を出すことを大切にしていた。ここ数年は、大きな仕事にチャレンジすること、より豊かなキャリアを築きたいと強く考え、新たな価値を提供するための仕組み

みづくりなどにエネルギーを注いできた。15年1月から半年間、日本女子経営大学院でマネジメントやリーダーシップを学び、素晴らしい仲間にも出会えた。16年5月には、女性技術者の自立と連携を支援する米電気電子学会（IEEE E）のグループ「ウーメン・イン・エンジニアリング」主催の国際会議に登壇した。女性技術者を取り巻く各国の状況を肌で感じ、日本の女性技術者のモチベーションや業務環境の向上に貢献したいと

考えるようになった。こうした活動を評価頂き、日本女性技術者フォーラムから「2016年JWEF奨励賞」を頂いた。仕事仲間、友人たち、そして息子や両親の温かいサポートのおかげである。心から感謝している。新しいチャレンジを目の前にすると、挑戦する気持ちとおしつけく気持ちが今でも錯綜する。だが、怖さに負けず扉をこじ開けた先には新しい世界が広がっている。こうして得た経験から学ぶことで自分が大きく成長できることを知った。私が描く10年後、20年後の理想に近づくために、

これからも積極的に新しい扉をこじ開けていきたい。

企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWEF）
（火曜日に掲載）

▽
NTTドコモ
移動機開発部 主査
増田 恭子
△



△プロフィール△
02年日本女子大理卒、同年NTTドコモ入社。FOMA開発プロジェクト、営業部、サービス企画部などを経て13年4月から現職。